

平成30年度 学校自己評価 2学期

中津市立三郷小学校

1. 教育目標 自ら進んで、楽しく学び続け 様々な見方をして考えを深め、自分の言葉で発言(表現)し 共に学び磨き合う、最後まであきらめない いつも元気な三郷っ子
2. 重点目標 ①基礎基本の定着と活用力の育成
②対話力をみがき、認め合う力の育成
③進んで健康な体をつくる子の育成
3. 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準 A …達成率90～100% B …達成率70～ 89% C …達成率60～ 69% D …達成率60%未満
--

重点目標	達成指標	達成指標 評定	重点的取組	取組指標	項目 評定	評価	成果と課題、及び次学期(次年度)に向けての取組
基礎基本の定着と活用力の育成	○児童アンケートにより、「自分の考えを説明できた。」と答えた児童を80%以上にする。 ○単元テストでは、すべての観点で80点以上(ただし、C層の児童においては、70点以上)の児童割合を各学年80%以上にする。	A	学校	○自分の考えを持ち、伝え合う場のある授業に取り組む。 ○毎日1回は、話型(説明の基本形や友だちの発言に対して等)を活用して、ペア・グループ学習で自分の考えを伝え合う場を設ける。 ○単元を見通して、学習計画を話し合い提示する。(算数科) ○授業のはじめに、自分のノートで前時の振り返りをする。(算数科)	A	A	○ICT機器を用いて、伝え合う授業の創造に取り組んできている。特に、話型を用いて発言する機会を増やし、ペア・グループの中やクラスの中で自分の考えを出し合う場面を作ってきた。 ○話型を使うことやペア・グループで自分の考えを伝え合う部分は、習慣化されてきている。 ○算数に絞って学習計画をたて、子どもにわかりやすい授業を目指してきた。学習計画については、全クラスではないが、掲示するところが多くなった。 ○授業のはじめに前時のまとめを振り返ったり、練習問題を解いたりして振り返りをして本時につないできた。 ☆学習計画、振り返り、ノートと板書の一体化については再度研修の中で確認していく。 ☆家庭とのつながりを持つために、1月の中津市学力状況調査の結果を受けて、各家庭と面談をする場を設定する。 ☆C層の児童については、生活指導と絡んでいる面もあるので、相談しながら進めていく。個別指導をできるだけ行う。
			家庭	○家庭学習の習慣化を図る。 ○毎日、家庭学習の連絡帳へのサインと声かけを行う。 ○毎月1回「家庭学習チェックシート」に感想を書く。	A		○毎月のチェックシートを書く際に、保護者が書いているかを担任はチェックして児童に声かけ、もしくは、サインのない保護者には連絡を取って声をかけてもらった。 ●チェックシートにサインをしない家庭は減ってきたが、個別の声かけをしてもなかなか改善が見られない。 ●自学に取り組む子どもが増えてはきたが、家庭学習の定着ができていない児童もいて放課後残しての指導になった。
			地域	○学習支援をするために、なかつすくプロジェクト(学習サポーター)に参加する。 ○なかつすくプロジェクトで、さまざまな学習活動に参加要請があった時は、積極的に参加する。 ○学校公開日等の行事へ積極的に参加し、学校の取り組みについて感想などを述べる。	A		○すくすくプロジェクトのコーディネーターと常時打ち合わせをして、必要な人員を確保してもらった。 ○児童は、地域の方とつながり名前を覚えてもらうことで、地域の中に戻ったときにつながりをもっている。
対話力をみがき、認め合う力の育成	○児童アンケートで「児童朝会や遊び集会などで感想を言えた」と回答した割合を70%以上にする。 ○自己評価アンケート(児童・保護者)で「あいさつ+1ができた」と回答した割合を80%以上にする。	B	学校	○お互いに認め合う集団づくりを行う。 ○全校で「いいとこみつけの木」に取り組む。(いつ・どこで・だれが・何を・どうした・自分の気持ち、の視点で) ○対話力を磨くための「あいさつプラス1」に全校で取り組む。	B	B	○いいとこみつけの木は、各学年2枚目あるいは3枚目に突入した。 ○読む人がわかりやすいように、「いつ、どこで、だれが、どのように、自分の感想」と視点を確認し、児童会や生徒指導主任中心に劇化したり呼びかけをしたりしてきた。 ○児童会や生徒指導担当が「あいさつプラス1」の呼びかけ。児童会「あいさつプラス1隊」の劇化。 ○「あいさつがんばりカード」の実施。学校であいさつプラス1◎と答えた児童95%。 ☆できあがったいいとこみつけの木についてはランチルームに掲示し、みんなで見られるように声かけをしていく。 ☆『自分から先に』『元気な声で』もプラス1として考え、学校→家庭→地域へとあいさつを広げていく声かけをする。
			家庭	○家庭内でのあいさつを励行する。 ○PTA保体校外指導部会を中心にしたあいさつ運動に学期に1回は参加する。 ○毎日、保護者から名前を呼んであいさつをする。 ○学期に2回「あいさつがんばりカード」に感想を書く。	A		○児童朝会、遊び集会だけでなく、掃除の終わりの反省も追加し、感想発表の機会を増やしてきた。 ○発表が苦手な児童にも声をかけ、発表する経験をさせることもあった。 ☆3学期も引き続き、発表の場を設け、できたときは褒めることで自分の言葉で伝えることに自信がもてるように取り組んでいく。
			地域	○あいさつ・声かけ運動を推進する。 ○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもたちの様子について、学校に伝える。	A		○登下校時に見守りを実施。 ○見守り隊の方々にアンケートを実施。 ○12名の見守り隊の方からアンケート回収。あいさつや安全の声かけを続けてくれている。 ☆あいさつ面・安全面等、子どもの様子を引き続き学校に知らせてもらう。
			学校	○体育学習や委員会活動を活用した運動の日常化をめざす。 ○毎朝、「GM・F(グッドモーニング・フィットネス)」を全校で実施する。 ○授業の始まりに学年の学習内容や発達段階に応じたサーキットトレーニング・エクササイズを毎時間5分間実施する。 ○学期に1度、立ち幅跳びの計測を行う。 ○月に1度、縄跳び大会を行う。	A		○毎朝、「GM・F(グッドモーニング・フィットネス)」を全校で実施できた。→自分たちで運営できるようになった。 ○体育的行事に応じたサーキットトレーニング・エクササイズを毎時間5分間実施することができた。 ○学期に1度、立ち幅跳びの計測を行い、全体的に記録が向上した。(全国平均を上回る子が60%越え) ○毎朝の1分間連続跳びと月に1度の縄跳び大会を行うことで、巧緻性と持久力が向上した。→立ち幅跳びにも効果あり。
進んで健康な体をつくる子の育成	○体力テストの「立ち幅跳び」において、全国平均をクリアした数を70%以上にする。 ○児童アンケートで就寝時刻を意識できる児童の割合を70%以上にする。 ・9:00(低) ・9:30(中) ・10:00(高)	A	家庭	○自分に適した生活リズムの習慣化を図る。 ○毎日、家庭で決めた就寝時刻を厳守させる。 ○毎月、「チェックシート」の保護者欄には、子どもを励ます取り組みの感想を書く。	B	A	○毎月の「チェックシート」の集計を個別にグラフ化することで、子どもが睡眠について意識することができるようになった。 ○啓発動画を作成し、学級で鑑賞することで、睡眠の大切さを学ぶことができた。
			地域	○学校の体育的行事へ積極的に参加する。 ○プール納め、運動会、持久走大会に積極的に参加し、児童を応援する。	A		○保護者が運動会、持久走大会に積極的に参加し、児童を応援することで子どもの励みになった。 ○行事の準備や片付けに協力していただき、助かった。